

# 京都大学 2020年度後期 の授業展開

京都大学 喜多 一

KYOTO UNIVERSITY

京都大学



# 京都大学の COVID-19 対応レベル

- 2020 年度前期
  - 授業開始を 5/7 に延期，オンライン授業で実施
  - 6/19 専門科目での一部，対面実施を許可
- COVID-19 対応レベル
  - 10/1 に活動制限レベルを 2(-) から 1 に引き下げ
    - 授業：感染拡大の防止に最大限の配慮をした上で、可能なものは通常の形式で実施する。
    - 課外活動：屋外における活動及び感染拡大の予防に関して十分な安全対策が確認された屋内施設における活動などを除き、課外活動を自粛する。
- 2020 年度後期
  - 学年暦どおり 10/1 に開始。
  - 前期の経験をふまえ活動制限レベル 2（－）（対面授業，原則停止）で準備，開始後に活動制限レベル引き下げを勘案

# 授業実施上の配慮（抜粋）

- 新型コロナウイルス感染防止の影響で来校できない若しくは希望しない学生や、渡日困難若しくは渡日後一定期間待機が求められている留学生などに対し、当該授業の内容の同時配信、録画配信、又は補講等により、履修上の配慮を行う。
- 対面授業の実施に当たっては、教室等の収容率を50%程度とすること。

# ハイブリッド授業についての支援

- 教員支援
  - 情報環境機構と国際高等教育院が連携して Web サイトでの情報提供, オンライン・対面（模擬授業）での講習会の実施
  - オンライン授業と対面授業を組み合わせる方式.
  - 対面授業と同時双方向授業の共存（ハイフレックス）
    - 音場の制御（エコー防止）について, 具体的な方法を提案
    - 部局の教員からタブレット端末がマイクスピーカ代わりに使えることの紹介
- 学生支援
  - Wi-Fi ルータ貸し出しは後期に期限延長

# 教養・共通教育の対応

- 教養・共通教育の固有のリスク
  - 語学など発話する科目，狭隘なキャンパス，多学部の同時受講
- 当初の対面実施
  - 実験科目，スポーツ実習，少人数教育科目
  - 個別に対面実施が必要な科目は審査
- 授業実施の配慮事項
  - 前期の授業アンケートの意見を反映
- 活動制限レベル引き下げへの対応
  - 11月以降の実施について，教員の希望調査と実施許可

# 教養・共通教育の対応

- オンライン実施の配慮事項
  - 双方向性のより一層の確保と  
学生同士の対話への配慮
  - 課題の採点，添削，返却の推奨
  - 授業計画と成績評価の明示，シラバスの調整
  - 開講曜時限通りの授業  
(オンデマンドの資料配信を含む)
  - Live 授業の録画（通信状況への配慮）
  - 資料だけ示すのではなく解説する

# 科目実施の状況

- 教養・共通教育
  - 当初、計画していた対面実施科目と一部科目での対面（ハイブリッド）実施（科目全体の1割弱）
  - 11月以降はさまざまな科目40科目弱で対面（ハイブリッド）実施を許可
  - 実験科目はグループ分けして実施
- 学部，大学院科目
  - 少人数の科目中心に対面（ハイブリッド）実施，実施割合は学部によって大きなバラつき
  - 大人数科目は教室確保が困難
  - オンデマンド型中心で前期実施した学部では，同時双方向なども取り入れる。

# 科目実施の状況

- 1年生への配慮
  - 学部でビデオ会議型のクラス会などを実施
- 対面・ハイブリッド実施授業への学生の反応
  - オンライン受講を選ぶ学生も多い



# 全体として

- 活動制限レベル引き下げ
  - 急遽対応した前期授業の経験をふまえ
  - 学生の状況，意見を考慮
- 2つの方向性
  - オンライン授業の改善
    - （例，オンデマンド授業での同時双方向型の考慮）
  - 可能な授業は対面（ハイブリッド）実施

# オンライン学習環境への要望

- LMS については，実際の利用を経験して学生，教員双方から改善要求，提案なども多数
  - 運用ノウハウで対応可能なもの
  - システム改修が必須のもの
  - 運用ポリシーの見直しが必要なもの
- ユーザとのコミュニケーションが重要
- ユーザサイドの工夫（ブラウザプラグインの開発など）も見られる。
- 米国で開発された LMS の日本での本格運用上の課題もある